

イエス・キリストのみこころを想い、生きる

教皇フランシスコ回勅『主は私たちを愛してくださった』

(Dilexit nos)を読む

講師：阿部 仲麻呂

(日本カトリック神学院教授)

日時：4/24, 5/29, 6/19, 7/24

※木曜日 15:30-17:00

※会場とZoom(見逃し配信)の併用講座です。

※テキストはこちらで配布いたします。

教皇フランシスコは第16回世界代表司教会議の第二会期の終幕にあたる2024年10月24日に新しい回勅『主は私たちを愛してくださった』(Dilexit nos)を発布しました。

この新しい回勅の題名は、聖パウロによるローマの信徒への手紙8・37にもとづいてイエス・キリストのみこころを想い、生きるための導きの書です。(詳細は裏面をご覧ください)

一緒に、丁寧に読み解いてまいりましょう。

お申込み・お問合せ：公益財団法人真生会館

〒160-0016 東京都新宿区信濃町33番地4 Tel:(03)-3351-7121

URL: <https://www.catholic-shinseikaikan.or.jp>

◆アクセス：JR 信濃町駅 徒歩1分



「2025年春『イエス・キリストのみこころを想い、生きる』」を申し込みます。

ご希望の日程を○で囲んでください。

全日程 4月24日 5月29日 6月19日 7月24日

お名前(ふりがな)： _____

ご連絡先 TEL： _____

E-MAIL： _____



【会場受講】

チラシ・お電話・HPにて

【ZOOM受講】

HPにて(※更新は3月末)

「教皇フランシスコ回勅『主は私たちが愛してくださった』(Dilexit nos)」について

この回勅には「イエス・キリストのみこころの人間らしい愛(人間的な愛)と神らしい愛(神的な愛)」に関して述べる意図があります。つまり教皇フランシスコは私たちに対して、「真の神であるとともに真の人間でもあるイエス・キリスト」のみこころを理解するための助言をあらゆるキリスト者に対して授けようとしているのです。

しかも、「真の神であるとともに真の人間でもあるイエス・キリスト」を全司教団が明らかに自覚して共通理解としたのが325年のニカイア公会議でしたので、私たちはイエス・キリストと出会う恵みを2025年の通常聖年の時期にニカイア公会議開催1700周年の記念のひとつときとしても味わうのです。新しい回勅に書かれている内容を三つの要点にまとめれば以下のようなになるでしょう。

1. 「彼は私たちが愛してくださった」(ロマ8・37)ということへの驚嘆
2. 「心」の重要性の強調
3. イエス・キリストのみこころへの「深い畏敬の念」(信心)と「具体的な日常生活における奉仕」(奉仕)とを連続させること

こうした三点は、教皇フランシスコ自身の人生経験におけるキリストとの出会いの実感によって支えられています。教皇は自分自身の霊的経験と社会実践との統合の努力の歩みを元にして世界中のキリスト者たちをキリストに出会わせようと意図しているのです。その意図は、教皇ベネディクト16世が回勅『神は愛』のなかで強調していた言葉とも響き合います。——「人をキリスト信者にするのは、倫理的な選択や高邁な思想ではなく、ある出来事との出会い、ある人格との出会いです。この出会いが、人生に新しい展望と決定的な方向づけを与えるからです」

(教皇ベネディクト16世回勅『神は愛』バチカン市国、2005年12月25日、1項。

[邦訳はカトリック中央協議会、2006年、5-6頁])。

■2025年 木曜日 15:30-17:00

◎4月24日(木)回勅の背景／解釈;はじめに、第1章、第2章

◎5月29日(木)解釈;第3章

◎6月19日(木)解釈;第4章

◎7月24日(木)解釈;第5章、結論

